

令和3年度 新庄村立新庄小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

評価 A：期待以上 【目標を達成した】
 B：ほぼ期待通り 【おおむね目標を達成した】
 C：やや期待を下回る 【あまり目標を達成できなかった】
 D：改善を要する 【目標を達成できなかった】

| 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | |
|----------|----|--|---------|----|---|
| 項目 | 評価 | 分析・改善の方策等 | 項目 | 評価 | 自己評価に対する意見等 |
| 教育全般 | B | <p>「学校へ行くのは楽しい」という児童の割合は、昨年度より増加した。自信をもって「Aそう思う」といえる児童がさらに増えるようにしていきたい。</p> <p>「各種たよりやその他の方法で、必要な連絡をよくしたりしている」という保護者の割合も、昨年度より増加した。今後も子ども・保護者の方とのコミュニケーションを密に行い、小さな変化も見逃さず対処できるように努める。</p> <p>「小中の連携」「授業の工夫」「子どもの話をよく聞いているか」「いじめ対応についての説明」「地域との連携・協力」について、「分からない」といわれる保護者の割合が昨年度より増加した。授業参観や懇談、お便りなどで教育活動のねらいや取組の様子を伝えていくように努めていく。</p> | 教育全般 | B | <p>「学校で友だちや先生とかかわったり、活動したりするのが楽しい」という子どもの声をよく聞く。</p> <p>学校と保護者が共に活動する場面を作ってはどうか。例えば、「ひめのもち作り」でも、家庭へも参加を呼びかけ、ともに活動するなどの工夫が考えられる。</p> <p>学校からのたよりでも、活動内容に加え、活動の「成果」や子どもたちの「成長」が分かるような掲載をするなど工夫していきたい。</p> |
| 授業改善 | A | <p>「授業は分かりやすく楽しい」という児童の割合は、昨年度より増加した。その中でも「Aそう思う」という児童の割合が昨年度と比べて多かった。「学習内容がよくわからない」と答える児童が0%になることを目指していきたい。</p> <p>また、「考えや意見を発表している」「話をよく聞いている」「話し合いに進んで取り組んでいる」に「Aそう思う」という児童の割合が昨年度と比べてかなり多かった。今後もこれからの時代に欠かせない「表現する力」や「話し合う力」をしっかり身に付けさせたい。</p> | 学習指導 | A | <p>小規模校ならではの目指す姿を意識して取り組みたい。例えば、「授業が分かりにくいという子どもが0%になること」「1人の子どもの取り残さない、置き去りにしないこと」である。このことが、子どもや保護者、地域からの信頼感につながると考えられる。</p> <p>家庭学習については、子どもが自分だけの力で改善するのが難しい面がある。特に、「めやすの時間しっかり取り組めていない」子どもにとっては、その傾向が強いと考えられる。授業そのものの理解度を高めるとともに、「こういう内容をこのように進めてみよう」と個別に具体的に指導することが必要であろう。</p> |
| 学習評価 | A | <p>おおむね良好で学習評価は適切だと理解されている（「分からない」をのぞく肯定的回答は、100%）。新しい評価の観点が実施され、評価について研修を行い、保護者によりわかりやすく伝えていくように努める。</p> | | | |
| 家庭学習の充実 | B | <p>「進んで取り組んでいる」という児童の割合と「意欲的に取り組んでいる」といわれる保護者の割合は、昨年度とほぼ同じ。</p> <p>しかし、めやすの時間しっかり取り組んでいるかについては、児童の回答に「Aそう思う」と「Cあまりそう思わない」の二極化が見られる。授業と家庭学習とのつながりを工夫するなど、学校と家庭とがさらに連携することで学習習慣の定着を図りたい。</p> | | | |
| 体験的学習 | A | <p>「ふるさと新庄学」など体験的な学習活動では、地域を中心にして、小中の接続を意識し9年間で身につける力を明確にし、よりよいものにしていきたい。</p> | | | |
| 特別活動 | A | <p>昨年度に引き続き高評価である。児童にとって「小中合同のよさがある」、保護者にとって「活躍できる工夫している」と考えている割合が高かった。</p> | | | |
| 規律・生活習慣 | B | <p>姿勢を正して学習することが引き続きの課題となっている。家庭と学校とで歩調を合わせ、自然にできるようになるまで指導していきたい。</p> <p>あいさつ・はきものやロッカーの整頓については「できている」という児童の割合は昨年度と同じだが、保護者の割合は大きく減っている。児童と保護者の方の捉え方の違いが大きい。</p> | 生徒指導 | B | <p>【授業参観より】机の中やロッカーの整理整頓はできているように感じた。</p> <p>また、授業のなかで、「自分の意見を主張しながら、相手の意見も認める」ということができていた。</p> <p>あいさつがよくできるようになったと思う。遠くからでも元気にあいさつをする姿が多く見られるようになった。</p> <p>小規模校では、価値観が狭くなりがちで、いじめが起る可能性が高くなるとも考えられる。複数対1名という場面でも、1名を異質と見るのではなく、その1名の考え方も取り込んでいくという指導をしていきたい。</p> |
| 共感的な集団作り | B | <p>普段から子どもと積極的にかかわり、良いところを見つけ、認め合う風土がいじめなど諸問題が起きにくくなる基盤である。引き続き子どもたちと積極的にかかわりをもつように努める。</p> | | | |
| 教育相談 | A | <p>「気持ちや考えを聞いてくれる」など、児童とのコミュニケーションについては「Aそう思う」という児童の割合が、昨年度と比べてかなり多かった。今後もアンケート調査、いろいろな形態での教育相談日の設定などに取り組んでいることに加えて、日頃から子どもの様子をよく見て小さなサインを見逃さないようにしていく。</p> | | | |
| いじめ防止 | B | <p>児童については肯定的な回答をした割合が大きく増加した。保護者については学校の考えが伝わりにくかったという反省をしている。PTA総会や懇談等の機会を捉えて、学校の考えや取組を伝えていきたいと考えている。</p> | | | |
| 保健・安全指導 | B | <p>校内や登下校時の安全については肯定的な回答がほとんどであった。</p> <p>「進んで運動したり、外で遊んだりしている」と回答した児童の割合が、昨年度より大きく減っている。運動する機会を増やし、身体を動かすことが好きな児童を育てていきたい。</p> <p>昨年度と同様「苦手なことでも頑張る」ことに否定的な回答をした児童もある程度あり、少々の壁にあたって乗り越えようとする「たくましさ」を身につけられるよう意識した指導をしていきたい。</p> | 保健・安全指導 | B | <p>【スポーツ少年団の様子より】もともと運動好きな子が多く、運動能力の高い子どもも多いと見受けられる。</p> <p>持久走カードのように、取組の成果が目に見える工夫がとてもよいと思う。このように、屋外で遊ぶきっかけをさらに作ってほしい。</p> |
| 家庭・地域連携 | A | <p>「保護者や地域の声に耳を傾け、よりよい学校づくりに努めている」に肯定的に回答している保護者の割合が、昨年度より増加した。</p> <p>ほめる（認める）こと、叱る（指導）ことは子どもの成長（人格形成）にとっても大きく関わる。学校でもよいことはしっかりほめ、良くない行動は毅然とした指導をするようにしている。地域連携はよくできている。</p> | 家庭・地域連携 | A | <p>「放課後子ども教室」の利用者も増加しており、サッカーやソフトバレーボールの村外の大会にも参加予定である。</p> <p>地域と連携した教育活動は進んでいると考えられる。</p> |